

# 石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施（4）

Teaching classes by the curator and placing exhibitions

at elementary schools (4)

—Utilizing the artifacts from *Ishikari Momijiyama No.49* archeological site

荒山 千恵\*

Chie ARAYAMA\*

**キーワード：** 博学連携，教育普及活動，文化財活用，縄文時代（縄文文化），石狩紅葉山49号遺跡

## 1. はじめに

いしかり砂丘の風資料館では，石狩市花川に位置する石狩紅葉山49号遺跡（以下49号遺跡）（石狩市教育委員会，2005）を活用した出張授業を実施している。目的は，身近にある遺跡・遺物等を学習の機会に活用し，地域の歴史に興味・関心を高めてもらうことにある。本取組は，平成26年度に始まり，今回（平成29年度）は4年目の実施となった。平成26年度から28年度の実施内容は，毎年刊行されている紀要にまとめている（荒山，2015；2016；2017）。以下に，平成29年度の出組について記す。

## 2. 実施内容と方法

今年度に石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業を実施した学校は，石狩市立石狩小学校（第6学年，4月），石狩市立紅南小学校（第6学年，4月），石狩市立緑苑台小学校（第4学年，6月）である。また，石狩市立八幡小学校（第6学年，4月）では，いしかり砂丘の風資料館見学で49号遺跡を活用した学習が行われた。第6学年の3校は社会科での歴史の導入部，第4学年の1校は総合的な学習の時間の一環で行われた。以下

に，これらの内容について紹介する。

### （1）石狩小学校（写真1，写真2）

石狩小学校での取組は，昨年に引き続き2回目である。石狩小学校は，いしかり砂丘の風資料館の近くに位置し，徒歩で移動できることから，昨年度と同様に，校内教室でおこなう出張授業（45分間）と，来館授業（45分間）との組み合わせで実施した。

まず，出張授業では，最初に縄文時代のくらし，石狩紅葉山49号遺跡の概要について，プレゼンテーションソフトを用いて説明した。その後，縄文文化の土器・石器を観察する時間を重点的に配分して取り組んだ。土器の観察では，実際に粘土に縄を転がしたり竹管を押ししたりして文様の仕組みを考え，実際の土器の文様と比較する時間を設けた。また，石器の観察では，石鏃やスクレイパーを透明ケースに収納し，石材や道具の機能・用途について考える時間を設けた。これらの児童の観察の時間では，49号遺跡の発掘作業に携われた加藤和子氏に参加いただき観察方法などをサポートしていただいた。また，児童には一人ずつワークシート（解説シートと感想記入用シート）を配布し，観察して興味をもったことや不思議に思ったことなどを書いてもらった。

\* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

次に、出張授業の翌週に、来館授業により、49号遺跡から出土した木製品を中心とした展示見学を行った。この時間にも加藤氏に協力をいただき、49号遺跡の出土品が遺跡からどのように発見され、どのように調査がおこなわれたのか、児童が発掘の経験談の話を聞くことのできる時間を設けた。最後には、まとめと発表の時間として、児童からの質疑応答、来館した児童一人ずつによる発表、教諭からコメントをいただき、授業を終了した。

### （2）紅南小学校（写真3，4）

紅南小学校では、第6学年を対象として実施するのは今回が初めてである。校内の図書室で2クラス各々45分間ずつ実施した。図書室で実施したのは、班ごとに資料観察を行いやすいスペースであることに加え、教室の窓から49号遺跡と学校との位置関係を確認できるからである。授業では、最初に縄文時代のくらし、石狩紅葉山49号遺跡の概要について、プレゼンテーションソフトを用いて説明した。その後、資料観察の時間配分に重点を置いて、土器・石器・木製品をテーマに、それぞれ2班ずつ6班に分かれて取組んだ。これらの時間には、49号遺跡の発掘作業に携われた、加藤和子氏・菅原順子氏・小池久恵氏に参加していただいた。各氏には児童の資料観察のサポートの中で、発掘調査のときの遺跡の様子や整理作業の経験談を交えながら対応していただいた。児童が観察してわかったことや不思議に思ったことは、班ごとに付箋に書き出して観察シートに貼ってもらった。観察後には、班ごとに観察結果を発表した。

### （3）八幡小学校（写真5，6）

八幡小学校では、第6学年の歴史の導入部として、いしかり砂丘の風資料館での来館授業を行った。49号遺跡をテーマにした常設展示の見学に加え、出張授業で用いている観察用の資料も活用し、展示室内のテーブルに土器片や石器などを用意して間近に観察できるようにした。また、常設

展示には紹介していない八幡小学校の学区に位置する若生C遺跡から出土した縄文文化後半期の土器（本州で古墳時代の頃）を用意し、身近にある遺跡のことを学べるようにした。展示見学では、縄文時代の学習を中心に、解説の一部では写真を用いて、本州の弥生時代にも触れるようにした。また、加藤和子氏に協力いただき、49号遺跡の発掘作業の経験談として、出土品がどのように発見されたのか、展示されている繊細な木製品をどのように調査したのかなどのお話をいただいた。授業の最後には、児童が一人ずつ、わかったことや気がついたことなどを発表した。

### （4）緑苑台小学校（写真7，8）

緑苑台小学校での取組は、今年度で3回目である。第4学年の総合的な学習の時間「わたしたちの住む石狩市」の一環で、石狩紅葉山49号遺跡について学んだ。出張授業は、校内の理科室で、2クラス各々45分間ずつ行った。49号遺跡の発掘調査を総括されていた石橋孝夫氏に協力をいただき、授業の最初にプレゼンテーションソフトを用いてこの遺跡について話をいただいた。その後、土器・石器・木製品をテーマに、それぞれ2班ずつ6班に分かれて資料観察を行った。観察の時間では、石橋氏・加藤氏・菅原氏・小池氏に協力いただき、観察を行う児童のサポートをしていただいた。児童が観察する資料については、教諭との事前の打ち合わせの段階で、今年度は昨年度に比べて1クラス当たりの児童数が多く各班の人数が多くなることを確認できていたため、あらかじめ土器片の数を増やしたり、石器のケースを小分けにしたりなどの調整を行い、班内の児童が観察しやすくなるよう工夫した。授業の最後には、児童がわかったことや気がついたことなどを発表した。

新たな試みとして、昼休みの時間を利用して、児童が興味をもった資料や、授業で他の班が観察していた資料をさらに観察することのできるコーナーを設けた。この取組みは、事前の打ち合わせの中で、教諭から提案されたものである。この時

間にも49号遺跡の発掘調査に携われた方々に協力をいただき、児童との交流をとおして、遺跡や遺物に興味を深められる時間となった。

上記のほかに、授業の実施時期に合わせて、出張展示を校内多目的ホールで5日間開催した。例年と同様に、出張授業を実施する学年の児童だけでなく、他の学年の児童にも見てもらうことができた。

### 3. 実施の成果と課題

#### (1) 効果の考察

児童による資料観察後の発表や感想から、授業の効果について確認する。

3校で実施した第6学年の取組は、先述のとおり縄文時代（縄文文化）の学習で行われた。児童の発表や感想には、観察した土器・石器等をとおして、縄文文化の暮らしをイメージした道具の機能や用途や、製作技術や材料採取などに興味を寄せるものが多くみられた。具体的には、土器に関して、「どんな粘土が使われていたか」「作るのにどれくらい時間がかかるのか」「昔の料理を知りたい」、石器に関して、「黒曜石のとり方を知りたい」「狩りのしかたを知りたい」「石斧で本当に木が切れるのか」などの感想があった。また、観察した道具以外にも、衣服・住居・火・家族に関して興味を示した発表・感想がみられた。さらに、「教科書で学んだ土器や石器の本物を実際に見ることができた」「割れた状態やヒビの入った土器の状態を見て、本当に土の中から発見された大昔の道具であることを実感できた」「実際の遺跡に行ってみたくなった」「他にもどこに遺跡があるか気になった」など、遺跡・遺物の存在に実感をもって興味を示すものもあった。これらの内容からは、児童が実物を中心とした資料観察をとおして、縄文文化の暮らしや道具について理解を深め、地域の遺跡・遺物にも興味を高めることができたと考えられる。

1校で行われた第4学年を対象とした取組は、「わたしたちの住む石狩市」の学習の一環で、先

述のとおり、石狩紅葉山49号遺跡をテーマとした出張授業・出張展示により実施した。児童からは、「遺跡が近くにあつて驚いた」「大昔の石狩に人が住んでいたのに驚いた」などの声が聞かれた。また、土器・石器・木製品を観察し、昔の技術や、昔と今の道具を比較した感想・発表も複数にみられた。自分たちが暮らしている地域に大昔から人が暮らしていたことを知り、観察して気がついたことが数多く書き出されていることから、取組は効果的であったと考えられる。

なお、児童からの感想文については、すべて一言を添えて返却した。

#### (2) 博学連携事業としての成果と課題

石狩紅葉山49号遺跡をテーマとした社会科や総合的な学習の時間での取組みは4年目を迎え、市内小中学校の中でも周知される連携事業として定着しつつある<sup>(注1)</sup>。各学校に合わせた対応も、学校との事前の打ち合わせで確認する事項や基本的な教材が定まってきたことで調整することが可能になってきた。地域の文化財が児童・生徒の学習の機会に活用されることは、歴史への興味や理解を深めてもらう契機となっていると考えられる。特に、児童が身近に遺跡があることを知ること、意欲的に観察したり意見を交わす様子がみられる。また、遺跡の調査に携われた地域の方々から直接話を聞いて資料を観察できることによつて、児童の関心がさらに高まり、質疑応答を含めた交流の時間が充実したものになっている。

このような取組を継続的に実施していくためには、学校と資料館との連携による学習の機会が、双方の年間予定に計画されていることが大切であると考えられる。学校ではカリキュラムの中で位置付けされ、資料館では年間予定の中で学校利用のおおよその時期や内容を把握する。そのことによつて、①教諭と学芸員との事前の打ち合わせが行いやすくなり、②前年度に実施している場合には、前回の実施内容を踏まえた打ち合わせや、教諭からの提案に応じた新たな取組みを準備することが可能になり、③次年度にカリキュラムが引き継が

れた際にも継続的な実施へと繋げやすくなり、④学校と資料館の双方向が能動的な教育活動として取組を充実させることができる。

資料館には実物資料や標本など多様な資料が収蔵されている。それらを児童や生徒の学習の機会にどのように活用することができるか。資料館が担う教育普及の役割をより効果的に果たすための一つとして、学校のカリキュラムに照らしたプログラムや教材の開発の継続的な取組みが大切である<sup>(注2)</sup>。学校との持続的な学習の機会をもつことのできる資料館の教育普及活動の充実を、今後も学芸員の立場から目指していきたい<sup>(注3)</sup>。

**謝辞：**平成29年度の49号遺跡を活用した出張授業・来館授業の実施にあたり、石狩市立石狩小学校、石狩市立紅南小学校、石狩市立八幡小学校、石狩市立緑苑台小学校に大変お世話になりました。また、49号遺跡の調査を担当された石橋孝夫氏、いしかり砂丘の風の会（いしかり砂丘の風資料館ボランティア）の加藤和子氏・菅原順子氏・小池久恵氏には、多くのご協力を賜りました。末筆ではございますが、心より感謝申し上げます。

注1 平成27年度から石狩市内小中学校向けニュースレターを発行（年1回）しており、平成29年度も博学連携に関わる実施報告や活用例を紹介したものを作成し、11月下旬に各学校の教諭全員に配布した。このような周知の取組みは、博学連携事業を定着させる効果の一つになっていると考えられる。

注2 博物館による遺跡を活用した郷土学習について、学習プログラムを作成した取組の実践をまとめた一つに、林勇介（2016）の研究がある。学校で学習する関連教科に応じたプログラムが生まれ、歴史・地学・動植物学・美術・化学・家庭科による幅広い分野で対応できる内容が具体的に示されている。

注3 博物館の教育普及活動の一つに、学校教育との連携の充実が求められている（守井，1997；若宮，1998；大國，2008；竹内，2008；2012；寺島，2013など）。

中学校における出張授業・出張展示の実施について、いしかり砂丘の風資料館紀要，5：67-75。

荒山千恵，2016。石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施（2）。いしかり砂丘の風資料館紀要，6：17-23。

荒山千恵，2017。石狩紅葉山49号遺跡を活用した出張授業・出張展示の実施（3）。いしかり砂丘の風資料館紀要，7：7-18。

林勇介，2016。博物館による郷土学習の実践的研究－北海道湧別町の遺跡の活用－。日本生涯教育学会論集，37：53-62。

石狩市教育委員会，2005。石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書。

守井典子，1997。博物館教育論。（大堀哲 編）博物館学協定，東京堂出版，129-153。

大國義一，2008。学校教育と博物館。（全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編）新しい博物館学，芙蓉書房出版，49-51。

竹内有理，2008。博物館教育の実践2 地域連携とボランティア。（佐々木亨・亀井修・竹内有理 編）新訂博物館経営・情報論，財団法人放送大学教育振興会，165-177。

竹内有理，2012。博物館教育の内容と方法。（大堀哲・水嶋英治 編）博物館学II－博物館展示論\*博物館教育論，学文社，210-223。

寺島洋子，2013。学校と博物館。（寺島洋子・大高幸 編）博物館教育論，財団法人放送大学教育振興会，130-145。

若宮広和，1998。博物館教育と社会参加。（加藤有次・椎名仙卓 編）博物館ハンドブック，雄山閣，157-158。

## 引用文献

荒山千恵，2015。石狩紅葉山49号遺跡を活用した小・



写真1. 出張授業の様子。  
(粘土に縄を転がして土器片の文様と比較)



写真2. 来館授業の様子。  
(49号遺跡の発掘調査のときの様子について話を聞く)



写真3. 出張授業の様子。  
(土器班による観察。土器片の部位を検討している様子)

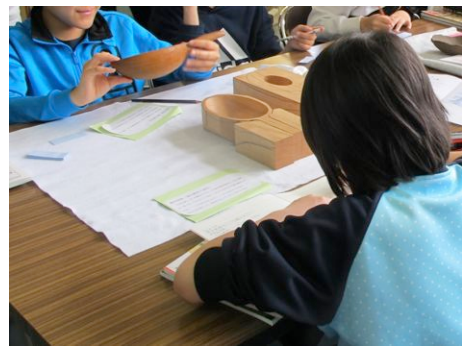


写真4. 出張授業の様子。  
(木製品班による観察。模型やレプリカを活用)



写真5. 来館授業の様子。  
(縄文時代のいろいろな道具を見学)



写真6. 若生C遺跡の土器(続縄文文化後半期)。  
(来館した小学校の学区にある遺跡から出土した土器を紹介)



写真7. 出張授業の様子。  
(授業冒頭の説明を聞く様子)



写真8. 出張展示の様子。

